

神戸市シルバーカレッジ 講義概要(シラバス)

コース 専攻	生活環境コース	学年	2年
講義日	令和 6年 4月 11日(木)午前		
テーマ	環境総論 「人間活動と環境問題」		
講師	北尾 進 (環境省・環境カウンセラー)		
<p>講義内容</p> <p>【授業の目的】 人間と環境とのかかわりを理解することによって受講生が環境問題により関心を持ち、自己の行動変容につながるようになること。</p> <p>【キーワード】 「高度経済成長」「グローバル社会」「市場の失敗・政府の失敗」「持続可能社会」「環境中心主義」「コモンズ」「社会的ジレンマ」「環境民主主義」「受苦圏・受益圏」「人新世」「人権」「環境市民会議」</p> <p>【授業の内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 人間は環境からどのような恩恵を受けているのかを考える。 ② 人間のどのような行動が環境を悪化させてきたのか考える。 ③ 環境破壊を防ぐために何が求められているのか考える。 ④ 私たち市民はどうすべきかを考える。 <p>【授業の進め方】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 主に講義を中心に進めます。 ② 最後に、将来世代の人間になり「将来世代」から「現代世代」への「一言メッセージ」を書いていただきます。 			
<p>講師からのメッセージ</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 日々の暮らしの中で環境問題とのかかわりに関心を持ち、考えるようにしましょう。 ② 新聞やテレビの環境に関する報道に接したときは、その背景なども考えましょう。 ③ 環境市民活動をしている卒業生や市民と交流してみましょう。 			

神戸市シルバーカレッジ 講義概要(シラバス)

コース 専 攻	生活環境コース	対象学年	2 年
講義日	令和 6年 4月 11日 (木)		
テーマ	資源循環「資源循環社会を学ぶ」		
講 師	環境省 環境カウンセラー		
<p>講義内容</p> <p>【ねらい】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. SDGs を知る <ol style="list-style-type: none"> ① SDGs 認知度調査 ② 持続可能な開発の世界目標 ③地球環境が土台 2. 資源循環社会を学ぶ <ol style="list-style-type: none"> ① エコロジー度チェック ② エコな生活を知る ③プラごみと食品ロスを通して 3. SDGs 時代(環境の世紀)の私たちの生き方 <p>【主な内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. SDGs とは何か、基本的な知識を知り学びます。 2. 資源循環社会を学ぶでは、エコロジー度チェックから「エコな生活」を踏まえてプラごみや食品ロスの具体的な事例を知り、学び、共に考えます。 3. SDGs 時代(環境の世紀)での身近な生活の視点から私たちの生き方を皆さんと共に分かち合います。 <p>【 キーワード 】</p> <p>「SDGs(持続可能な開発目標)」「SDGs ウエディングケーキモデル」 「プラごみと食品ロス」「資源循環型社会と法体系」「3R(リデュース・リユース・リサイクル)」「水平リサイクル」「プラスチック資源循環法」「サーキュラーエコノミー」 「消費期限と賞味期限」「3 分のルール」「フードバンクとフードドライブ」 「環境市民(グリーンコンシューマ)」「ゼロカーボンアクション30」 「地球規模で考え、足元から行動する(Think Globally Act Locally)」</p> <p>講師からのメッセージ</p> <p>SDGs 時代(環境の世紀)にこれまでの資源循環社会を「知り」「学び」「行動し」「伝える」ことを、「座学」ではなく、役に立つ知識と知恵の「実学」として身近な生活に結び付けて、学者、専門家、評論家でもない市民視点で、これまで約50年間地球環境問題と向き合ってきた環境省環境カウンセラー(約20年前に登録)として、みなさんと共に共有し有意義な時間にしていきます。</p>			

神戸市シルバーカレッジ 講義概要 (シラバス)

コース 専攻	生環／ECO コース	学年	2 年
講義日	令和 6年 5月30日 (木)		
テーマ	(自然共生) 神戸の絶滅危惧種とその保全		
講師	里地・里山の保全推進協議会 事務局 大嶋 範行		
講義内容			
<p>神戸市には約 8,000 種の動植物 (哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、汽水・淡水産魚類、昆虫類、淡水・汽水産甲殻類、陸産・水棲貝類及び維管束植物) が暮らしています。これは 150 万人が住む大都市としては、非常に高い数値となっており、それは海あり山ありの多種多様な自然環境に恵まれた神戸ならではの特徴と言えます。</p> <p>しかし、この 8,000 種のうちの実に 12%にあたる 932 種は絶滅が危惧される生きものとして、「神戸版レッドデータ 2020」に記載されました。このレッドデータは、2 度目の改訂が行われ、2021 年 3 月に公表されたもので、前回と比較すると 61 種が新たに追加され、70 種がランクアップしています。</p> <p>環境省の調査によれば、里地・里山は日本の国土の約 4 割を占め、この里地・里山に我が国の絶滅の恐れがある生きもののほぼ半数が暮らしているとされています。</p> <p>今回の講義では、生物多様性が高いとされている里地と里山が接する場所に立地する棚田とその周辺に見られる動植物を中心に話を進めます。今、市内の棚田では耕作放棄地が急速に増加しており、生物多様性の低下が懸念されているところです。</p>			
<p>①里地・里山とは</p> <p>②里地・里山は動植物の宝庫</p> <p>③里地・里山のホットスポットは棚田</p> <p>④消えゆく里地・里山の動植物</p> <p>⑤里地・里山での保全活動</p> <p>⑥今後私たちにできること</p>			
講師からのメッセージ			
<p>里地・里山の豊かな自然を守るために、シルバー世代が中心となって活動を展開しながら、その成果を若い世代に継承していくような仕組みづくりが望まれます。また、生きものの減少は絶滅危惧種に止まらず、普通種にも及びつつあることを知ってほしいです。</p>			